

科目名		電気工事実習			
担当教員		藤田・田中・清野		実務授業の有無	有
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	166時間
授業概要、目的、授業の進め方	ケーブル配線工事、金属管工事、合成樹脂管工事を組み合わせて板付け電気工事を実施する。昇中実習と安全特別教育を行う。				
学習目標 (到達目標)	チームで責任をもって課題を完成させる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	電気工事実技教科書 一般社団法人 雇用問題研究会				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ケーブル回線工事		作業板に屋根を付けての天井照明工事、自動点滅器やタイムスイッチを使った自動運転回路。		
2	薄鋼金属管工事		薄鋼電線管にねじ切りをする。ねじ付きの金属管工事付属管を使用しての金属管工事を行う。		
3	モーターシーケンス制御		マグネットスイッチを使った電動機運転の自己保持回路を施工する。インターロック回路の作成。		
4	昇柱訓練		電柱の昇り降りを行う。企業連携授業。		
5	低圧電気取扱者安全衛生教育		労働安全衛生法の低圧電気取扱業務に関する特別教育。		
6	フルハーネス型安全帯使用作業特別教育		昇柱訓練のために安全帯使用のための特別教育。		
7	高所作業車運転のための特別教育		高所作業車の作業床操作のための特別教育。		
8	電気工事士技能試験単位作業		電気工事士技能試験公表問題の練習。		
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点	課題				
10 %	90 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			電気工事の設計・施工・管理・維持ができるように学習する。		
実務経験教員の経歴		電気工事会社に、実務経験は44年になります。			